



1\_ 重信中学校陸上部の蚊帳太志さんは県総体の走高跳、四種競技で優勝 / 2\_ 東温高校男子ソフトボール部。全国大会前の校内試合。1本でも多く打つ / 3\_ 重信中学校陸上部全員で揃えるTシャツ / 4\_ 走高跳の練習中、バーの調整をする / 5\_ アップでコンディションを整える / 6\_ 走塁の練習は力が入る



7,8\_ 素早い動きで相手に隙を与えない / 9\_ 面を被ると、気持ちが切り替わる / 10\_ 厳しく歩型を見られる競歩。一步一步が大事になる / 11\_ 自己ベストを目指してゴールへ向かう / 12\_ 重信中学校剣道部の片上倅之介さん / 13\_ 東温高校陸上部卒業生の小林琉奈さん / 14\_ 東温高校陸上部の東土朗さん



# 特集 最後の夏

— 戦いに掛ける思い —

3年という限られた時間の中で  
過ごす学校生活。  
地道な努力を積み重ね、結果を残した  
今を輝く中高生の最後の夏を取材。



1



2



3

1\_四国大会前、走高跳の練習をする蚊帳太志さん／2\_四種競技のハードルの練習。競技のバランスを考えて練習する／3\_準備や片付けなどは率先して行う

## 1cmでも高く 目標に向かって 確実に進む

第74回愛媛県中学校総合体育大会陸上競技の男子走高跳、四種競技で優勝した重信中学校陸上部3年生の蚊帳太志さん。

走高跳は小学校6年生から始め、「走高跳の空中で飛んでいる時の感覚が好き」と笑う。走高跳は昨年の記録から10cm伸ばした。四種競技は、得意の走高跳で高得

点を叩き出し、堂々の1位。出場種目が多いため、効率の良い練習が肝となる。「毎日メニューを変えている。今日は走高跳、明日はハードルみたいな。大会が近付いてくると、どの種目も満遍なく練習する」四国総体直前は、走高跳とハードルの練習で最終調整を行った。四国総体の走高跳の目標は179cm。自己ベストを狙っていたと話す。決めた目標に対して人一倍ス

トイックな蚊帳さん。「家では、目標の高さにゴムを張り、毎日目標を意識しながら助走の練習をしている」と話す。

迎えた四国総体。四種競技は総合順位3位の成績を残した。四種走高跳の記録は、1m73で1位、四種ハードルは2位の成績を残した。走高跳では7位を記録し、四国総体でも活躍した。

蚊帳さんの挑戦はこれからも続く。

### 怖気ず挑み続ける

重信中学校剣道部3年生の片上倅之介さんは第74回愛媛県中学校総合体育大会剣道競技の男子個人で優勝、全国総体で3位の快挙を成し遂げた。

昨年度は、県総体でベスト4、四国総体で3位の成績を残した片上さん。今年は試合に臨む姿勢が昨年と変わったと語る。「二本を取られ

たらいけないと緊張したので、優勝は嬉しかった」。県総体で特に印象に残ったのは準決勝。「前の試合では勝てなかった相手。挑戦者の気持ちで挑んだ」。延長戦まで持ち込み、粘り取った決勝の切符に安堵した。「毎日やるべきことをきちんとやってきたことが結果につながった」

片上さんは7月まで剣道部の主将を務め、後輩からの信頼は厚い。面を被り竹

刀を持つと、素早い動きで一本を決める。時には、後輩の構えに的確なアドバイスをし、休憩中は冗談を交え気さくに話す。2年生で新主将の白戸誠剛さんは「試合で勝ち続ける強くて憧れの存在」と話す。「四国総体の目標はまずベスト4」と謙虚に語った。宣言通り四国総体ではベスト4、全国総体で3位を勝ち取った。「高校でも勝てるよう頑張りたい」と闘志を燃やした。

## 謙虚に 闘志を燃やし 全国3位に



1



3

1\_練習前に面を被る片上倅之介さん／2\_片上さんと新主将の白戸誠剛さん。取材日に新主将が発表され、剣道部のバトンを受け渡した／3\_後輩に竹刀の運びを教える片上さん。後輩からも慕われている



2



1



2



3



4

1\_ 東士朗さんと小林琉奈さん／2\_ 愛媛陸上競技選手権大会で自己ベストを目指し歩く東さん／3\_ 同大会では堂々の1位を獲得した小林さん／4\_ 顧問の越智先生と歩んだ3年間の競歩競技

## 先輩から後輩へ 次世代へと 受け継がれる

### 四国、そして全国へ

東温高校陸上部3年生の東士朗さんは男子5000m W(競歩)で第76回愛媛県高校総合体育大会2位、四国大会で3位で、全国総体に出場した。

練習は顧問の越智隆弘先生はもちろん、他校の先生から歩型指導を受け、技術面は昨年に比べ格段によくなった。全国総体前の練習では8〜9km歩き、よい感覚を身に

付け、第77回愛媛陸上競技選手権大会では、「かなりいい記録。全国総体でも同じような結果が出せたら」と果敢に記録に挑んだ。

原動力の一つに同校の先輩小林琉奈さんの姿があった。小林さんは昨年度全国総体に出場した。高校卒業後、県外へ進学した小林さんは、現在も競技を続けている。第75回西日本学生陸上競技対校選手権大会では女子10000m Wに出場し、1年生ながら6位と健闘した。

東さんは小林さんについて「ずっと背中を追っていた憧れの先輩」と話す。また、小林さんも「仲がいい。全国では1秒でも速く歩き、自分の納得のいく結果を出してほしい」と後輩を労った。

全国総体は、完歩で11位。自己ベストの22分28秒83を記録。大会後、東さんは「楽しかった。やりきった」と話した。さらに東温高校には、東さんの背中を追う1年生が2人。東温高校競歩競技は次世代へと受け継がれる。



5



4

## 武器を活かし 勝利を誘う



3



1



2

1\_ 主将 岡本享大さん／2\_ エース 大北雅久さん／3\_ 東温高校男子ソフトボール部の皆さん／4,5\_ 全国総体前の校内での試合

### 6年ぶり県総体優勝

6年ぶりの勝利を飾った東温高校男子ソフトボール部。6月4日、松山中央公園で行われた第76回愛媛県高校総合体育大会男子ソフトボール決勝。両者一歩も譲らず迎えた4回表。永井心選手の内野ゴロで渡部紫雲選手がホームに生還し、1点を先制した。その後も守り抜き、松山工業高校に1対0で勝利した。

優勝の快挙に男子ソフトボール部顧問の伊藤圭一先生は「優勝は喜びと驚きだった。相手の技術力は高く、難しい戦いになると思っていた。練習や試合へのひたむきな姿勢と運を味方につけたことが、勝利につながったと思っている」と話した。

全国総体に向けた練習中、選手たちの明るい声がグラウンドに響いた。試合中は互いに声を掛け合い、時折笑顔を見せる。

主将の岡本享大さんは「東温高校の一番の武器は元気な声。特に県総体決勝では持ち前の明るさがチームの士気を上げた」と話す。

もちろん、運だけではなく実力を備える東温高校男子ソフトボール部。普段の練習では、守備の強化、一点を確実に取るため走塁など小技に力を入れた。ミスをして、課題を意識しながら何度も果敢に挑戦した。エースの大北雅久さんは「練習では変化球の投球に力を入れた。緩急を磨いたピッチングで無失点に抑えられたのが良かった」と話す。

6年ぶりの全国出場に伊藤先生は「初戦の相手は優勝候補。県大会と同じく、無欲でひたむきに挑むことができれば、目標のベスト8も夢ではない」と話した。

全国総体は、1回戦で惜しくも負けてしまったが、全国総体出場は、東温高校男子ソフトボール部の新たな歴史を刻んだ。